

2019年度第3回理事会議事録

日 時：2020年1月24日（金）13:00～15:00

場 所：東京文化会館 小会議室

出席者：(敬称略)

理事) 石井善昭、石塚真由美、大河内 博、太田壮一、大塚宜寿、坂田昌弘、四ノ宮美保、柴田康行、鈴木規之、清家伸康、高菅卓三、高田秀重、中島大介、中田晴彦、中野 武、橋本俊次、藤峰慶徳、三島聡子、宮崎照美、渡邊 泉
監事) 西島 功、吉田寧子

1. (議長選出)

定款 39 条「理事会の議長は会長がこれにあたる」に基づき会長鈴木規之氏が議長を務める。司会は業務執行理事が務める。

2. (定足数について)

定款 40 条により全理事数 (22 名) の 2 分の 1 以上 (11 名) とあり、本日の出席理事は 20 名であり定足数を満たしており、また監事も出席しており理事会は成立する。

3. (議事録について)

議事録は事務局が記録、作成し第 44 条により議長及び出席した代表理事並びに監事の署名、押印をし、本学会 HP へ掲載する。

(本日の議題)

4. 第 30 回討論会開催地について (鈴木会長)

2021 年開催の第 30 回環境化学討論会の開催地について以下のように決定された。

会期：2021 年 6 月 16 日 (水) ～18 日 (金)

会場：富山国際会議場 (〒930-0084 富山市大手町 1 番 2 号)

実行委員長：楠井隆史 (富山県立大学)

交流会

日時：2021 年 6 月 17 日 (木) 18:00～予定

会場：ANA クラウンプラザホテル富山 (国際会議場隣接)

5. 機関誌「環境化学」の電子ジャーナル化の進捗報告 (橋本理事)

「環境化学」の電子化は順調に進んでおり、それに伴う投稿規定の改定や会員への周知も行われている旨報告があった。

印刷物が無くなることで、ホームページを充実させることが必要であり、幹事会の広報部会またはホームページなどを充実させる委員会の立ち上げが必要であろうと意見がでた。

6. 英文誌 EMCR 創刊計画の進捗報告 (高田理事)

Environmental Monitoring and Contaminants Research (EMCR) の創刊にむけて、JST のコンサルティングのもと、今年の春にジャーナル Web サイトのオープンと秋頃に一報目の発刊を目指し

準備が行われているとの報告があった。また、海外国内の編集委員の手配も順調であると報告された。理事の皆さんへの投稿の協力が呼びかけられた。

7. DIOXIN2019 共催の報告（高菅理事）

39th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants は2019年8月25日から8月30日に、京都国際会館で開催され、国内345名、国外は45カ国から483名が参加し、盛況であったと報告があった。収支についても黒字であったため、当会への300万円の寄付が今年度中に行われるので、学術研究のために利用してほしいとの実行委員長の意向も伝えられた。

8. 2019年度決算見通しおよび2020年度予算案について（中島理事）

- 2019年度決算見通しについては、500万円以上の赤字予算であったが、DIOXIN2019からの300万円の寄付金と英文誌創刊のための今年度中の費用が想定ほど大きくなかったこと、第28回環境化学討論会が約300万円の黒字であったことで相殺され、100万円程度の黒字決算の見込みが示された。
- 2020年度予算案については、300万円を超える赤字予算となっている大きな要因は、英文誌創刊準備費支出の300万円のためであると説明があった。
- 英文誌の300万円について、継続的に学会の持ち出しとして赤字予算でよいのか？との意見に対し、英文誌創刊は学会の将来のための「投資」であることが確認された。
- 予算案の討論会収入及び支出については第28回討論会の予算案に準じていることが説明された。
- 今年度「国際交流費(DIOXIN)支出」としてDIOXIN2019の共催金200万円が支出されたが、DIOXIN2019が黒字であったため、今年度中に300万円がDIOXIN2019から寄付金として入金される見込みである。上記については支出額と寄付金額とが明確になるよう記載することとした。
- 2020年度予算案に従来あった「国際交流費支出」の項目がないことが指摘され、国際交流の費用はどこから出すのかとの質問があった。
これに対し鈴木会長から、来年度予算には予備費を計上し、国際交流費や学術図書出版関連など必要が生じた費用について、都度申請に基づき理事会または会長副会長承認で利用する方向で検討したいとの回答があった。

9. 優秀発表賞について（大塚理事）

環境化学討論会における優秀発表賞（学生や若手を対象とした賞）は第20回環境化学討論会（熊本）から継続されてきたが、討論会実行委員会が主導しているため毎年その取り扱いが変わり、参加者にとって分かりにくい状況にある。そこで、優秀発表賞を表彰部会の所掌とし、学会内の他表彰制度との整合性を図りつつ、一貫した運営を目指してはどうかとの提案があった。

- まずは大塚理事のもとワーキンググループをつくり、2020年の討論会（大阪）で試行できるように準備進めて頂くことになった。
- 優秀発表賞のこれまでの運営については以下のような意見があり、ワーキンググループで検討して頂くこととなった。
 - ・ 審査方法によっては審査員の負担が大きい。

- ・表彰の時間がかかりすぎる。
- ・賞の数が多すぎる。
- ・審査の基準が明確でない。
- ・年によって交流会の招待などの副賞が変更される。

議長により 2019 年度第 3 回理事会の議題審議が終了したことが宣言され、閉会した。

署名人 議長 鈴木 規之 印

監事 西島 功 印

監事 吉田 寧子 印